



(提供：岩手県宮古市)

教訓

大規模災害を乗り越えるには 防災を日常にすることが大切

東日本大震災を境に私たちの防災に対する意識は大きく変わった
あれから1年が経過した今、あらためて身を守る術を考える

生き延びるために

いつ発生しても不思議ではない、「東海」「東南海」「南海」の大地震。国の中央防災会議は、この3地震が連動して発生した場合、死者は約2万4700人、震度7の激しい揺れや10メートルを超える津波で約96万棟の住宅などが全壊すると発表しています。東海地震で予想される津波の第1波は、地震後5分以内に市内沿岸部に到達するといわれています。どうすれば5分という短時間で安全な場所へ避難することができるのでしょうか。防災時には、誰もがパニックに陥ります。そんな中、自分の身を守るためにはどうしたらいいのか、今一度真剣に考える必要があります。

突然発生する地震、そして間髪を入れず襲来する津波。大自然の猛威から生き延びるためには、シナリオどおりの訓練を繰り返すだけでは意味がありません。より現実的にかつ生き延びるための訓練に本気で取り組むことが大事です。もし耐震性が優れているはずの避難所が使えなかったら、自主防災会の救助係がい